



いま教祖年祭活動に 歩み出すとき

2月大教会教会長会議

立教186年2月22日

大教会長 片山 幹太

本島通信

発行所 〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R230223-0227-18
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【2月16日～3月31日】
朝づとめ 午前6時45分
夕づとめ 午後6時30分

先月(1月)21日に本部巡教があり、本部員田中善吉先生のご講話を頂きました。このたび田中先生のご講話の全文を掲載した本島通信特別号を発行いたしました。各教会一部ずつあると思います。

これは田中先生にお目通し、校正を頂いて完成したものです。改めて年祭活動の意義を復習させて頂きましよう。

次に、「をびや許し」についてです。「をびや許し」を本部に願ひ出るとき、まず本島詰所で願書を作成いたしますが、このとき大教会より『をびや許し』を頂くあなたへというお便りを差し上げることになりました。

内容は、をびや許しの理合いを簡潔に説明した上で、「赤ちゃんが産まれ、お名前が決まったら、ぜひ本島大教会へお知らせ下さい」という

お願いの文章と、返信用ハガキを同封しています。

報告を頂きましたら、大教会より赤ちゃんにお祝いメッセージを送らせて頂きたいと考えています。

そして大教会みんなで子供さんの成長を見守っていききたいと思いますのでよろしく願ひします。

さて、教祖年祭活動が始まり、大教会の各部各会では年祭活動について、いろいろ検討が始められています。

今日は本部の各会の活動について、私の思いも含めて簡単にご紹介したいと思います。

まず婦人会は今年の4月「別席強調月間」を打ち出しております。本島支部としては、「一人が一人」という目標を掲げさせて頂いております。婦人会本部の打ち出しに沿って、別席者をご守護頂けるように努めさせて頂きましよう。

次に青年会です。青年会は基本方針「心を澄ます毎日。」を掲げました。私はとても強いインパクトを受けました。心を澄ませることで、自然と勇んだ活動になるのだと思います。

す。青年会員に限らず、心を澄ます毎日を求めて努めさせて頂きたいと思います。

次に少年会です。この夏、数年ぶりに「こどもおちばがえり」が開催されるとの発表がありました。コロナ禍前と同じようにはならないと思いますが、大事なことは、同じ行事へ戻ることより、「また夏休み」に子供達をおちばへ連れ帰らせて頂けるのだ。そして「おちばではいろんな行事を用意して、子供達の帰りを待っていて下さるのだ」という感謝の気持ちを心に置いて参加させて頂きたいと思います。

最後に学生担当委員会です。今年の「春の学生おちばがえり」は、久しぶりに制限なく開催してくださることになりました。

学生達は真柱様のメッセージを頂戴して、新たな学年を迎えるということです。学生層には別席を運べる17歳以上を含みますので、おちばでの信仰を一步踏み出す、そのきっかけ作りに私たちも努めさせて頂きたいと思います。

ありがとうございました。

「親から子、子から孫へと 引き継いでいく一歩一歩」を

大教会役員
西山道教^{にしやまみちのり}

只今は2月の月次祭を大教会長様を芯に一手一つで勇んで勤められ、誠に有難い限りでございます。

ご指名を頂きましたので、しばらくの間お付き合いくださいますようお願いいたします。

先月(1月)21日には大教会において「本部巡教」が開催され、本部員田



中善吉先生のご出向を頂き、論達第
四号の精神と年祭活動の意義についてお話し頂きました。

続く22日の大教会春季大祭では、大教会長様よりご講話を頂き、おさしづを台に、三年千日の歩み方、心構えをていねいに分かりやすくお話下さいました。

さらに25日は本島詰所において「教祖140年祭本島大教会決起の集い」が開催され、寒波来襲の中でありましたが、各地より大勢の先達^{せんだち}が参加され、特に班別練り合いを通して年祭活動に向かう機運の高まりをお見せ頂きました。

こうして、いよいよ教祖百四十年祭の年祭活動が始まりました。

ところで、昨年1月4日 真柱様

は年頭のごあいさつの中で次のように仰せ下さいました。

「私は、道を伸展させるためには、いろいろな意味において、教祖の年祭を勤めることは大切なことであると思いますので、次の百四十年祭は勤めさせて頂きたいと思っているの
であります。」

「このごろ、教内には、いろいろな姿を見せられています。教会の名称をお返ししなければならぬということだけでなく、いろいろな姿が見せられています。身上にしろ事情にしろ、そうした出来事には、その原因というものが、それぞれにあるだろうと思います。

しかし、それをさらにさかのぼれば、私たちが先人の苦勞を忘れ、結果として、教祖が遠くなってしまうたというところがあるのではないかと思います。入信の元一日を忘れ、結構な状態にあることが普通になってしまい、なかには、そうでなければ信仰するのは嫌だという気持ちにもなり、そうした姿のなかで、だんだんと現れてきた姿ではなからうかという気がするのであります。」

私はこの「教祖が遠くなつてし

まった」というお言葉に心が痛みました。真柱様に誠に申し訳ないという気持ちと、大変なご心配をおかけしていることに気づきました。

これから三年千日を歩む私たちに對して、教祖の道具衆としての信仰姿勢を強く戒め^{いまし}られてるように思いました。

私自身、常日頃どれだけ教祖を感じて過ごしているか思索しました。

に、い、が、け、お、た、す、け、に、出、掛、ける時、お、さ、づ、け、を、取、り、次、が、せ、て、頂、く時、信、者、宅、へ、出、向、く、時、も、常、に、御、存、命、の、教、祖、の、お、伴、を、し、お、働、き、を、信、じ、切、つ、て、つ、と、め、さ、せ、て、頂、い、て、い、る、の、か、と、思、う、と、き、大、い、に、反、省、さ、せ、て、頂、く、の、で、あ、り、ま、す。

い、ざ、と、い、う、時、必、ず、教、祖、に、お、出、ま、し、頂、け、る、よ、う、常、日、頃、嬉、し、い、に、つ、け、悲、し、い、に、つ、け、し、っ、か、り、教、祖、に、心、を、繋^{つな}いで通る中に、夢にまでお出まし頂けるようになって初めて本物のようぼくと云えるのではないかと思うのであります。

教祖を見失って、我々の信仰はありえないと思います。

おさしづに

「影は見えぬけど、働きの理が見えてある。これは誰の言葉と思う

やない。二十年以前にかくれた者やで。なれど、日々働いている。案じる事やらんで。(明治40年5月17日)

とあります。

しっかりとご存命の教祖を信じ、もたれて、教祖を感じながら年祭活動を進ませて頂きたいと決意している次第であります。

1月25日「教祖140年祭本島大教会決起の集い」の中で、大教会長様は次のようにお話し下さいました。

「論達第四号の中で『教祖はどのような困難な道中も、親神様のお心のままに、心明るくお通り下された。』とお示し下さっております。どんな中でも有難いなあ、結構やなあ、嬉しいな、こういう通り方をさせて頂くのを先ず基本において、これから三年間歩ませて頂きたい。」と述べられ、続いて、

「我々はつい、いろいろなことが結構になってきて、親神様、教祖からどんな中も結構にお連れ通り頂いているという、有難いことを忘れがちになっていく気がします。この三年間は特に日々常々、親神様、教祖を感じながら通らせて頂きたいと思っ

ています。」

と年祭活動に向かう心の軸をはっきりお示し下さいました。

そして「年祭活動は道を伸展させるために勤める大切な活動である」との真柱様のお言葉から、「おつとめをしつかりつとめ、おちばがえりをして、おちばに伏せ込み、先ず一人が一人をおちばにお連れしよう」と呼びかけられました。

こうして、本島大教会の三年千日が始まりました。

さて、論達第四号に

「教祖お一人から始まったこの道を、先人はひながたを心の頼りとして懸命に通じ、私たちへとつないで下さった。」とあります。

ここで私は改めて、信仰をつないでくれた先代の苦勞を振り返らせて頂きたいと思ひます。

私の父、西山耕一は戦時中、大教会の青年づとめのときに赤紙(臨時応集令状)が来しました。そして入隊しましたが、その部隊が移動中、荷を満載したトラックの上に乗っていた時、悪路のはずみで振り落とされ、重たい荷物が自分の足の上に落ちて

右足の膝の骨が砕け、筋も神経も切れてしまいました。

軍医から「このままでは足が腐ってくるので、足を切断しなければ助からない」と言われ、やむなく手術を待っていると、先に腕を切断している兵隊さんの手術が行われていました。ろくに麻酔もしないで手術するものですから、悲鳴が聞こえてきて、それを聞いた父は「とてもじゃない」と手術を断ったそうです。

「じゃあ、勝手にせえ」と言われ、簡単な処置をされただけで傷痍軍人として除隊になり家に帰ってきました。家に帰ったら、後の本室分教会初代会長となる西山リンや父吉太郎から、「こうなったら神様に治してもらいより仕方がない。七重の足を八重に折るぐらいの低い心で通れということだ」と諭されます。

そこで耕一は昭和19年、松葉杖をついて油汗を流しながらおちばがえりし、修養科第37期に入りました。

当時の詰所はほとんどが海軍の兵舎にとられ、修養科生は豊岡詰所から通っていたとのことでした。

ある日、あまりにも足が痛むので、遂に夜中に詰所を抜け出し、神殿に来てお願いをしました。

「もし、命がないのならこの場で命を引き取ってほしい、もし命があるのであればこの痛みだけ取ってほしい。そのかわり一生、人だすけの御用につとめさせていただきます。」と一心にお願いしたということです。

足を投げ出してお願いしているうちウトウトとしたことですが、その投げ出している足の上に何か白いものがぴょんと飛んだ気がして、ハッと気がついたら足が治っていたということです。

朝、昨日までついていた松葉杖を肩に担いで豊岡詰所に帰って来た父の姿を見て、当時の修養科生達は感激の余り泣き合ったということです。

「一生、たすけ一条の御用を勤める」という心定めを神様は受け取って下されたと思います。

その後父は、本室の初代会長の手足となって御用を勤められ、それから二代教会長を継いで長い苦勞の道中を通ってくれました。

父は、一生、自分が救って頂いたときの心定めを守り、教祖のひながたを頼りに、どんな貧乏生活の中でも明るく道一条を通り、夫婦で心合わせ、子供達を育ててくれました。

貧乏な中でも、父の唯一の楽しみとしたのは、私のような息子でも子供の成長ではなかったかと思えます。教祖の親心も、子供の成人を楽しみに、子供可愛い一条で通り下された、ひながたの道ではなかったかと思えます。

親はどんな苦勞の中も子供の成長を楽しんで通るのだと思います。

その父は教祖90年祭の前年におちばで突然出直しました。

おちばで不思議なおたすけを頂いて30年、昭和50年おちばで出直したのです。

その時は、一生懸命お道を通じているのに何故こうなるのかと思いましたが、今思うと、おちばで救われ、おちばで出直した、30年間の命を足して下さったのだと思います。

その後、母が教会長に就任しました。

母の就任奉告祭、父の1年祭と次々とつとめ終え、一段落した次の年の正月休みに帰省した時、会長である母から、教会内容の充実について、いろいろな悩みを聞かされました。

正月料理を頂きながら聞いていたのですが、そのうち早く話を切り上

げたい、という軽い気持ちで、「じゃ、教会に戻るよ」と言った途端、母は私の手を握り強引に神殿に引っ張って行きました。

神殿、と言っても茶の間に続く畳数枚の小さな参拝場です。そこに正座して、何をするのかと思っていたら、パンパンパンパンと手を叩いて「只今息子が道一条を通る心定めをしました。」と言上するのです。電光石火の早業はやわざです。

「お前も参拝しなさい」と促され無理やり参拝させられました。

次の朝、大変なことになってしまったと、悩みました。

約束を反故はごにすることもできたのですが、母の悩みをいろいろ聞かされた後で、それも出来ず、悶々もんとんとしました。

自分が働いて教会を支えている、という思い上がりもあり、その自分が道一条になったら一体誰が支えてくれるのか、と人間思案でいっぱいになりました。

東京の職場に戻る青函連絡船の中で、普段は4時間程仮眠できるので、会社に何と言おうかと考えると、寝るに寝られない落ち着かない状態でした。

さあ、「どうする道教」です。

しかし、大きな決断が出来ました。昭和53年会社を辞め、7月から修養科に入りまして以後、道一条を通らせて頂いております。

親々のお蔭で私は今、結構に通らせて頂いております。

論達第四号に

「その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、末代へと続く道となるのである。」

とお示し下さっています。

昨年5月、大教会創立120周年記念祭における真柱様のメッセージのなかに、

「先人たちの心を受け継ぎ、その足跡の上に立って、新しく道を伸ばして、少しでも成人の歩みを進め、それと共に、後に続いて歩む人を責任持って育てていくことが、皆さん方の役目であると思います。」とお言葉を下さいました。

親から受け継いだ信仰を今度は確実に次の代に引き渡す責任を感じるのです。

このことを思えば、自分が預かる教会は決して十分な状態にあるとは

言えません。

しかし、この句に何としても御守護頂きたいと思っているのです。

母が私を神殿に引っ張って行ったのは、句を逃さず、その時が来るのを待っていたからだと思えます。

信仰を繋いでいくためには、決して諦めず、心を繋いで、時句に声をかけていく、このことが大切な事と学びました。

さて「教祖140年祭全教会二斉巡教」は始まっておりますが、私の教会は4月8日と決まりました。

教会につながるすべてのようばく信者にしっかり声をかけ、もれなく参加してもらえよう、心を尽くし、心定めの実行に励ませて頂きたいと思えます。

そして私を始め、教会にお引き寄せ頂く、すべてのようばく信者の一人ひとりに見合った成人目標を定め、それに向かって相談し、練り合って、心を配り、句を逃さず、成人して頂けるよう声をかけ、丹精に励みたいと思っております。

本島大教会の年祭活動の角目に、「おつとめ」と「おちばがえり、」をお示し頂いております。

私は朝夕のおつとめでは、身上、事情の方の御守護をお願いして、つとめております。特に朝づとめ後、20人程のお願いづとめを夫婦でつとめております。更に毎日の十二下りてをどりにも真実込めて勤めさせて頂きたいと思っております。

また、私は毎月おちばへ帰参させて頂いておりますが本部朝づとめには神殿まで歩いて行くようにしております。

毎月おちばに帰らせて頂けるのは、信者さんから御守護を託されて代表して帰参している、という思いで、信者さんの救かりを願いながら一歩一歩、歩ませて頂くようにしております。

また、おちばがえり団参は、コ罗纳でなかなか実行出来ませんでした、これから年に1回、おちばがえり団参を計画して行きたいと思っています。

「二人が一人おちばにお連れさせて頂きましょう」と、お声を頂いておりますので、にをいがけ、おたすけに励み、一層成人目標に向かって勤めさせて頂きたいと思えます。

いよいよ三年千日が始まりました。

信仰の元一日を忘れず、先人の苦勞を忘れず、教祖ひながたを身近に感じ、有難い、結構だ、嬉しいな、と心明るく通らせて頂き、教祖140年祭に向かって、歩ませて頂きたいと思えます。

我々が乗っている本島丸は教祖140年祭に向かっていよいよ船出しました。

最後に、お道には「航海」という素晴らしい歌があります。

教祖140年祭に向かう歩みを、拙い文章ですが、航海風に綴ってみました。

私たちの本島丸は

大教会長様を船長に

年祭という風を頂いて

教祖のあたたかい親心を感じながら

「お道を伸展させるため」という

大きな目標に向かって動き始めた

その船は

「おつとめ」と「おちばがえり」という

二本の帆柱に風をはらんで

教祖140年祭という航海に船出した

私たちは

「ひながた」という海図を頼りに

進路を定め

嵐すさぶ日も

深い霧にたたずむ時も

風なくさ迷う日も

どんな中もすべては成人の「ふし」と受け止めて

心倒さず

有難い、結構だ、嬉しいなと

楽しみと希望をもって進む時

きつと目指す島にたどり着く

その島の名前は「陽気ぐらし」

私たちは、一手一つに力を合わせ

高く帆を張って

本島丸は、年祭という航海を乗り

切るのです

ご清聴有難うございました。

(文責・本島通信編集室)



訃報

本島大教会役員夫人
本攝分教会4代会長夫人

藤山好子姉

藤山好子姉(本島大教会役員夫人、
本攝分教会4代会長夫人)は去る
令和5年2月22日午前10時24分お



出直しになりました。享年97歳。

葬儀はみたまうつしを2月23日午後6時より、告別式を翌24日午前9時より、本島詰所において大教会長斎主のもと執り行われました。

藤山好子姉略歴 昭和2年1月1日生まれ。昭和22年6月24日、おさづ

けの理拝戴。同年6月27日、修養科第72期修了。同年9月1日、教師検定合格。昭和23年4月16日、教師補

命。昭和26年11月7日、中野孝治氏と結婚。昭和56年1月22日、婦人会

本島支部委員。立教160年1月22日、婦人会本島支部相談役(立教168年11

月まで3期)。大教会では長く祭文の清書を担当されたほか、平成27年

9月から晩年は本備前分教会に住居を移し、寄り来る人々に笑顔で「あ

りがとう」と接するのが常で、よきにをいがけのご生涯でした。

二月月次祭

祭典役割

神殿講話	胡三味線 弓線	小琴鼓	すりがね鼓	太鼓	拍子木	ちゃんぽん 笛	てをどり	地 方	座りづとめ てをどり前半 てをどり後半	祭主 指方 大教会長 牧野道昭	扨者 老木邦光 岩橋竜造	賛者 永山晴明 高垣光治
										献饌長 西山道教 伝 供 岡崎八十則・篠原不王・ 吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・ 大上道徳・奥村龍夫・伊東康成・ 雲庵春彦・片山直明・茶屋原良 昭・横山正次・高島栄造・長尾 海和・位下道治・長濱充憲・岩 橋守行・白垣初生・岩橋秀一・ 宮路和徳・鎌田典夫・山下英 久・滑川善久・時久英次・村 田輝夫・川村吉夫・溝口晋太 郎・香川勝巳 雅楽奉仕者 池田恒治・片山 秀明・上山薫・伊東賢太郎・ 内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・ 吉田貴慶・白垣俊生(順不同)		
										西山道教		
										井上哲 雲庵道延 窪田靖明 岡崎八十則 岩橋慶三 永島宗行 長尾澄子 片山榮 向所暉美子		
西山道教	向所暉美子	片山榮	長尾澄子	永島宗行	岩橋慶三	窪田靖明	岡崎八十則	岩橋慶三	永島宗行	長尾澄子	片山榮	向所暉美子
西山道教	永山みすゞ	井上みつゑ	岡崎むつゑ	奥村龍夫	大上道徳	茶屋原良昭	向所隆文	後藤正治	雲庵春彦	横山富明	吉田知彦	長尾海和
西山道教	佐藤道子	片山美穂	岩橋貴子	村田輝夫	横山正次	山下英久	長尾海和	吉田知彦	横山富明	伊東康成	岩橋守行	時久英次
西山道教	梅木澄代	谷口十糸子	菅岡和美	雲庵まち子	岩橋元実	高島栄造	篠原丕王	老木邦光	大教会長	高島清弘	寺本教生	會長夫人
西山道教	池田さわみ	片山やすゑ	片山やすゑ	池田さわみ	岩橋元実	高島栄造	篠原丕王	老木邦光	大教会長	高島清弘	寺本教生	會長夫人

二月月次祭祭文

立教百八十六年二月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王
命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎ん
で申し上げます
親神様には限りなく深い親心と尽きせぬ御守
護のまにまに成人の道恙がなくお連れ通り下
さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない限
りでございます

私共は届かぬながらも言葉に言い尽くせぬ御
高恩にお報いさせて頂きたいとひたすらたす
け一条に懸命に努めさせて頂いております
その中に今日の吉き日は当大教会の月次祭の
日柄に当りますので只今から役目に与るおつ
とめ奉仕者一同一手一つに心を揃え元気に勇
んで座りづとめ、てをどりを勤めて二月の月
次祭を執り行わせて頂きます

御前には未だ厳しい寒さの中も厭わずこの日
を樂しみに帰り集いました道の子供達が共に
おうたを唱和して尚も変らぬ御守護にお縋り
する真実の状をもご覧下さいまして親神様に
もお勇み下さいますようお願い申し上げます
尚去る一月二十一日には当大教会に於て「本
部巡教」を受講させて頂き、この月二月から
五月まで「全教会一斉巡教」が実施されます
私共は「論達」に込められたをの思いをしつ
かりと心に治めこの道を歩むよふべく信者一
人ひとりが教祖のひながたに心一つに合わせ
ておつとめに心を込めてにいがけ、おたす
けに励ませて頂きこの三年千日を成人への一

里塚として通り切らせて頂きたいと存じます
加えておだばでは来る三月四日から八日まで
「学生生徒修養会大学の部」並びに十日から
十二日まで「学生生徒修養会高校卒業生コー
ス」が開催されるに当たりおだばや上級教会
への伏せ込み、進学、就職など環境の変るこ
の時期に今まで以上に道の将来を担う学生層
への育成に心をかけて丹精に努めさせて頂く
所存でございます

何卒至らぬ点届かぬ所は幾重にもお仕込み下
さいまして時句の親の声を目標として思召に
添い切るよう懸命につとめさせて頂く私共を
今までに増してお連れ通り頂き、やがては世
界一列互いに扶け合い陸び交す陽気づくめの
世の状に立て替わりますようお願い申し上げます
同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

(立教186年2月22日)

▼本島△尾藤大輔 ▼本新田△友松
裕子

【2名】

2月22日(水)

【香川県丸亀市】

天候 晴時々曇
最低気温 -0.7℃
最高気温 8.0℃
平均気圧 1030.1 hPa
平均湿度 63 %
平均風速 2.0 m/s
日照時間 8.5 時間
降水量 0.0 mm

攝泉分教会4代会長就任奉告祭



攝泉分教会(井上みち子会長、大阪府岸和田市)では、昨年11月26日のお運びで井上みち子氏の教会長任命の理のお許しを戴いておりましたが、去る2月5日午前11時より大教会長夫妻(随行・井上哲役員)を迎え、4代会長就任奉告祭を執り行いました。参拝者42名。

挨拶に立った大教会長は「教祖年祭活動の始まりと、新しい会長の門出が同じ旬に立て合っているの、尚一層のこと論達第四号の精神を、攝泉分教会4代会長の精神として、皆と心を一つに歩んで頂きたい」と述べられ、さらに論達第四号に示されている「お計らい」「刹那的」「明



るく」などの言葉を選び、「お見せ頂くどんなふしも不足にならぬよう、起こってくることの元を見失わぬよう、そして人々の心を明るく照らす道しるべとなれるようお通り願いたい」と心構えを促されました。そして3月19日に迎える上級の本攝分教会創立百周年記念祭に触れ、「百という重い意味を心に置いて、それぞれの人生に一度限りの大事なこの時を、岸和田祭のだんじりを曳くように陽気ぐらし世界実現に向かって皆で引張っていけるよう、百周年記

青年会布教・教理勉強会&北海道ひのきしん

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では「布教・教理勉強会」を1月28・29日の二日間、本島詰所にて開催し、会員9名が参加しました。

初日は青年会本部が推進している「問いと対話」を実践。これは、話し手と聞き手に分かかれ、一つの議題について話し手が説明、聞き手が質問す

念祭の場に大勢の人が居られることを望んでいます」と期待を述べられました。

続いておつとめが勇んで勤められ、最後に井上みち子新会長は「前会長の出直しから2年余り、なかなか立ち直れずにいましたが、上級の会長様や皆さまの温かい励ましを頂き、今日の日を迎えることができました。教祖140年祭活動のこの旬に、教祖にも背中を押して頂いているように思います。大教会、上級の思いに沿い、勇んで勤めたい」と決意を述べました。



ることを積み重ねることにより、新たな気づきや、思考に深みを得ることを目的にしたもの。さらに自分の思いを伝える言葉や、こうありたいという自分の姿を具体的にイメージする訓練に繋がります。参加者は「問いと対話」を通して、自分自身の信仰を見つめ直し、布教の現場で自分は何を伝えたいのかを話し合いました。

第2日目は、JR奈良駅と近鉄奈良駅周辺で神名流し、路傍講演を実施。大きな勇みと自信を得ることができました。



続いて2月10日から12日の日程で「レッツゴー青年会」を実施。本室分教会(北海道室蘭市)、本樺分教会(札幌市西区)、樺太分教会(北海道美幌市)でもおもに雪下ろしひのきしんに汗を流しました。4名参加。

本岡分教会100周年

本岡分教会(井野川由子会長、岡山市北区)では、大正11年2月5日に高島嘉代治を担任者として本岡宣教所が設立してから昨年は満100年を迎える節目の年にあたり、12月12日に大教会長夫妻(随行・横山富明青年※当時)を迎え、月次祭に併せて創立100周年記念祭を執り行いました。参拝者6名。



少年会新隊長

(立教186年1月26日付)

本護隊 杉山 奈槻
本水島隊 谷 優晴

【計2名】

すき間のおはなし

親里はいつから「桜の名所」になったのでしょうか。

筆者が高校生だった教祖百年祭の頃も桜はありました。東筋の真柱宅に沿って並ぶアタミザクラと、別席場前のシダレザクラは当時から見事だったけれども、それはそのとき、親里にいる学生や修養科生だけのご褒美的な印象でした。

ところが今や親里には、13品種約2万本の桜が、3月初旬から初夏近くまで長く花を咲かせるのだそうです。多くの観光客がカメラ片手に訪れ、SNSで感嘆とともに拡散されています。たまたま書店で手に取った単行

本「和想百景 知られざる奇跡の絶景」(藤浪秀明著)に親里の桜が堂々と紹介されていたのを見つけたときはびっくりしました。

振り返ると、教祖110年祭から120年祭ごろ整備されていた所に植えられた苗木が大きくなり、今の親里を彩っていることに気がつきました。

まず西境内地拡張ふしんの後、スロープに植えられたのがプリンセス雅。東筋の本部駐車場の隣に



西境内地スロープのプリンセス雅

あった飯降先生や梶本先生のお宅の後にはエドヒガンザクラ。布留川河川敷の改修工事の後にはソメイヨシノ、ベニシダレザクラ、陽光ザクラなど5種類の紅白の桜。東右四棟の布留川沿いには八重ザクラ。さらに天理本通り沿いに昔「足達」の表札があった旧家が公園になっていますが、立派なヤマザクラがあります。

どこもかしこも、この10年から30年前に整備されたところに、将来を楽しみに全国の教友から桜がお供えされ、さらに今日まで見守ってきた桜守がいることに、素直に感動を覚えました。

そう言えば大教会でも10年くらい前、故向所登貫郎先生が旧教会や表参道に小さな桜の苗木を植えていたことを思い出しました。「ワシが生まれ落ちた場所に、桜を植えておくんだ」と言っていたような。

(むかいじよ)



東境内地のエドヒガンザクラ



別席場前のシダレザクラ

布教部報告(2月分)

にをいがけ名簿			おさづけ取次報告		
提出：25 教会			提出：22 教会		
総数：350 名			総数：786 回		
本	島	1	本	島	1
樺	太	1	本	太	1
本	倉	2	本	倉	2
本	岡	2	本	岡	2
本	樺	2	本	樺	2
本	室	2	本	室	2
本	谷	2	本	谷	2
代	々	2	本	万	2
本	万	2	本	台	2
本	代	2	本	京	2
本	都	2	本	千	2
本	京	2	本	代	1
本	千	2	本	濱	1
攝	津	1	本	攝	1
琴	浦	1	本	津	1
本	前	2	本	島	2
本	備	2	本	前	2
本	府	2	本	中	2
本	中	2	本	德	2
崇	德	2	本	山	2
本	宣	2	本	峰	2
本	陽	2	本	峰	2
本	山	2	本	峰	2
赤	峰	2	本	峰	2
豪	峰	2	本	峰	2
倉	峰	2	本	峰	2
栄	峰	2	本	峰	2
靈	峰	2	本	峰	2
實	峰	2	本	峰	2
仙	峰	2	本	峰	2

〈にをいがけ名簿〉〈おさづけ取次報告〉は今後、「布教部報告」として掲載いたします。布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。右側の数字はその年の報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。なお従来の「にをいがけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

教会の掲示板

【布教部】

(第1回) 水を飲めば水の味がする

- 布教部では、教祖140年祭までの36ヶ月間、毎月「教会の掲示板」を発行します。にをいがけにご活用ください
- A2サイズ、各教会1部ずつ配布。複数必要な教会は本島詰所にあります
- A4サイズは本島ドットコムよりダウンロードできます



統計 (1月1日～31日)

教会名	初席	中席	ぎげ座	修養科	教人講習	検定講習
本島		1				
本邦		1				
本備前		1				
本府中		2				
吉峰	1	1				
倉峰	1	1				
實峰		1				
吉松峰		1				
仙峰			1			
キャピタル			2			
サザンパシフィック			1			
所属不明		1				
合計	2	10	4	0	-	-

「ろくち会」報告は紙面編集の都合から、来月号に掲載させていただきます。

事情はいつ

立教186年2月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教186年1月分)

仙峰 向所あゆみ

キャピタル 老木アン美恵子

キャピタル 老木リサ優

サザンパシフィック

ゼクター・ザラパ

をびや許し

(立教186年1月分)

豪峰 本多なほ

【計1名】

大教会長動向

▼3月(予定)▲

- 1日、本部神殿奉仕当番
- 3日、香川教区役職者会議
- 8日、本柳分教会巡教
- 16日、本米浜分教会巡教
- 18日、本恵明分教会巡教
- 19日、本攝分教会
- 創立100周年記念祭
- 22日、大教会月次祭執行
- 23日、大教会春季霊祭執行
- 24日、修養科門出まなび
- 25日、かなめ会委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27日、かなめ会
- 28日、春の学生おちばがえり
- 28日～31日、教人資格講習会
- 31日、鼓笛隊春季合宿

天理時報online



家でも！ 外でも！ 職場でも！！

いつでも、
どこでも、
天理時報。



陽気ぐらし情報満載の「天理時報」がインターネットでもご覧いただけます。

会員登録で更に便利に！！



天理時報オンライン

検索

<https://jiho.doyusha.jp/>

大教会からの お知らせ

2月22日教会長会議連絡事項

「年祭活動の目標」提出



【総務部】

教祖 140 年祭に向かって、「教会として定めた目標」をご提出下さい

- 提出について：全教会一斉巡教が終わりましたら、所定の用紙に記入の上、大教会教祖 140 年祭実行委員会へご提出ください。

縦の伝道講習会

【少年会本島団】

- 日時：3月22日(水)
大教会祭典終了後神殿講話として
- 講師：西 正一郎先生(本部准員・少年会本部委員)

春の学生おちばがえり



【本島学生会】

〈本島学生会要項〉

- 集合：3月27日午後2時本島詰所
- 解散：3月28日午後5時予定
- 宿泊場所：本島詰所
- 参加御供：1,000円
- 担当：雲庵春彦(090-2515-8039)
- 教区から参加される方も、お知らせ下さい

大教会3月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：3月22日大教会3月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：
メールで、live@honjima.com に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：3月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



婦人会第105回総会

【婦人会本部】

- 日時：4月19日(水)
午前10時30分式典
- 場所：本部中庭および南礼拝場前、東礼拝場前、西境内地ほか
- 人数制限なしでの開催です
- 午後からの本部記念行事はありません

〈教祖誕生祭 おやさまへのお供え〉

- 手作りの品(おふきん、手芸品など)または賄い料
- 4月18日午前7時半までに北棟2階婦人会事務局までお届け下さい

女鳴物勉強会

【婦人会本島支部】

- 日時：3月22日夕づとめ後
- 会場：大教会参拝場

雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：4月8日午前10時集合
4月9日午後4時解散
- 会場：本島詰所
- 内容：平調の修得。初心に返って基礎から学ぶ。雅楽を始めるチャンス

鼓笛隊 第109回春季合宿



【本島団鼓笛隊】

- 期間：3月31日(金)午前9時集合
4月2日(日)午後1時30分解散
- 会場：本島詰所
- 内容：鼓笛練習・おちば伏せ込みひのきしん
- 要項は本島ドットコムよりダウンロード

3月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：3月21日～23日
- 派遣：本京①

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：3月25日～26日
- 派遣：樺太①、本宮濱①

〈鼓笛隊春季合宿：本島詰所〉

- 期間：3月31日～4月2日
- 派遣：渋谷、本浜、本邦、那波、安藝本中、赤峰各1名

<https://www.honjima.com/>


は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。
トップページ>各種ダウンロード

春季霊祭のご案内

【本島大教会】

3月23日、大教会で執り行われる春季霊祭に、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡申し上げます。

■一年祭	横関悦夫主 (本島)	■二十年祭	永山澄子刀目 (本島)
	川口永治郎主 (本島)		輔野信之主 (本島)
	寺本管一郎主 (本島)		輔野かず子刀目 (本島)
	永島精一主 (渋谷)		
■五年祭	宮本明主 (沖浦)	■三十年祭	田村マツ子刀目 (本萩)
	長尾孝昭主 (本島)		
■十年祭	須崎務主 (本谷)	■四十年祭	大林春子刀目 (カリフォルニア)
	永島タキエ刀目 (渋谷)		宮本喜代子刀目 (沖浦)

【計14霊】

※なお、教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合もあります。